

# ふくしま県人会だより

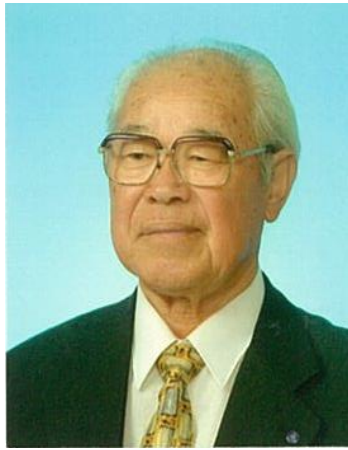
第35号  
平成29年3月  
福島県人会  
北海道連合会

## 福島県人会北海道連合会長

あいさつ

福島県人会北海道連合会

会長 神野 修



もう間もなく春が訪れてまいりますが、会員・ご家族の皆様ご健勝でお過ごしのことと拝察申し上げます。昨年5月に美幌町県人会の皆様のご協力で北海道連合会総会が楽しく開催させて頂き感謝申し上げます。月日の経つのは早く、5月には札幌県人会のご協力で第45回

総会を迎えます。

県人会はふるさと福島県を離れたこの北海道を第二のふるさととした者同志が、時にはふるさとの事を話し、現在のお互いの事を語りつつ親睦と交流をしよう場です。札幌の総会にも多くの会員が参加されますようご期待いたします。

ふるさとを思えば、あの未曾有の東日本大震災、わけても東電福島第1原子力発電所の放射能事故の大災害に遭ってから7年目、県では内堀知事様はじめ官民一体で復興に取り組みまれ進捗されている様ですが、とくに原発地域及び近隣においては、その目途が立たず、避難先で未だに不自由な生活に堪えられている事を聞き、一刻も早い復興と自分の街に帰られる日が訪れます様願うものであります。

わけてもテレビや新聞で大きく報道されています様に、幼児や学童が避難先でイジメられ、幼稚園や学

校に行けない、行きたがらない事を目にし、耳にする時胸が痛みます。北海道に避難して来られても福島の名を出せないという話を聞き、この様な人権無視の風評被害の払拭の為に私達も可能な活動を進められる事をお勧めします。風評被害でかつてのように店頭に並ばなくなったアサツキやニラ、伊達地方のアンポ柿が早く春の店先に並ぶ様に業者の猛省を促すものであります。国民の象徴天皇御退位と新元号に代わることが取り沙汰され、平成時代も幕を閉じつつある本年は、米国の新大統領トランプ氏の保護主義と経済理論により、私の生活にも影響が及ぶ事が予想されますが、福島県民の冷静且つ沈着な思考力で困難を乗り越えられます様ご期待申し上げます。

## 福島県知事

あいさつ

福島県知事

内堀 雅雄

福島県人会北海道連合会におか



れましては、昭和48年の発足以来、ふるさとを同じくする方々の心よりどころとして、会員相互の交流を深めながら、着実に発展を続けられておりますことは、誠に喜ばしい限りであり、会員の皆さんのふるさとを想う御熱意に心から敬意を表します。

また、震災以降は、様々なかたちで福島県の復興に御支援を賜り改めて深く感謝を申し上げます。

震災と原発事故から6年が経過いたしました。

この間、環境創造センターやふくしま国際医療科学センターなど環境・医療分野における新たな拠点施設の整備進展を始め、県内観光地のにぎわい回復や文化・スポーツ面における若者の活躍など、明るい光が強まりを見せてまいりました。

一方で、今もなお多くの方々が避

難生活を続けているほか、被災者の生活再建や廃炉・汚染水対策、風評と風化という二つの逆風など、本県の復興に向けた課題はいまだ山積しております。

県といたしましては、避難地域の復興再生を最優先課題とし、インフラ復旧整備はもちろん、医療提供体制の確保や学校再開支援等の広域的な課題への対応、イノベーションコースト構想の具現化など、一人でも多くの方がふるさとに安心して住み、暮らし、働ける環境づくりを進めてまいります。

また、復興を更に前へ進めていくため、農林水産業、商工業、観光業など既存産業の再生はもとより、再生可能エネルギーや医療関連産業を始め、ロボット産業、航空宇宙関連産業など、新たな時代をリードする成長産業の育成・集積を図り、経済や産業の活性化に取り組んでまいります。

さらに、復興と併せて取り組まなければならぬのが地方創生であります。本県人口の推移は厳しい状況が続いており、雇用の創出や定住・二地域居住の推進、地場産業や観光の振興など、福島ならではの地

方創生、人口減少対策を推進してまいります。

今後も、福島に心を寄せてくださる国内外の全ての方々と力を合わせ、将来世代に誇りを持って引き継ぐことのできる「新生ふくしま」の創造に向けて挑戦を続けてまいりますので、一層の御支援、御協力をお願いいたします。

終わりに、福島県人会北海道連合会の限らない発展と、会員の皆さんの今後ますますの御健勝、御活躍を心からお祈りいたしまして、あいさついたします。

## 会員通信

### 今は無き帯広県人会のこと

札幌福島県人会

幹事長 磯部 定成

私は昭和33年札幌へ流れて来て、最初に就職したのが広告代理店、新生広告社だった。

釧路支社を設立して間もなくだった為、釧路支社要員として採用されたのだ。

釧路支社で2年経った頃、社長の奨める社長の姪と結婚した。

その時の条件が帯広支局の開設だった為、間も無く帯広へ転勤となった。

北海道新聞、北海タイムスの広告営業社員とのタイアップ広告等もあり、仕事は順調だった。

帯広の商店街はせまい。半年も過ぎると親しい人がふえる。特に親しかった人が、大一ハイヤーの遠藤専務だった。この人は福島県人で帯広県人会の世話役だった。それで間も無く私も県人会の世話を手伝うようになった。

会長杉田歯科医院長他、役員に十勝川温泉国際ホテル社長筒井五三郎氏、新田会計事務所所長等が居た。そして2年経った頃、私が事務局をまかされるようになっていた。

その頃、県人会に安田火災の支店長が転勤で帯広へ。県人会で火災保険の代理店をやらないかと持ちかけられた。

遠藤専務と相談した結果「やろう」となった。その頃私は十勝川温泉組合長と親しかった。組合長に口をきいてもらって、各旅館、ホテル、1千万ずつ火災保険に加入して頂い

た。8社ある旅館ホテル全部と親しい会社、商店等にも加入して頂いた。

この手数料が私と遠藤専務の交際費となった。私が昭和42年8月札幌本社へ転勤になった時、観月ホテルの好意で、私の家族、妻の父、弟が一泊。そしてこの社長が各ホテルへ電話され、皆さんから餞別も頂いた。

その後何年か経った頃、十勝川国際ホテル筒井で「福島県人会北海道連合会総会」が行われた際、司会を頼まれたことがあった等、後々まで頼りにされていた。

このなつかしい帯広県人会は何年か前から消滅して今は無い。

### 29年度総会・新年会開催

函館福島県人会

事務局長・会計 菅野 広道

去る1月16日(土) 正午から29年度総会・新年会を魚来亭(会員のお店)で開催しました。昨年に続き昼間の開催でしたが、総会には会員15名に福島県北海道事務所から長谷川守所長が出席されました。冒頭、昨年亡くなられた古山事務

局長はじめ故人を偲び黙祷を捧げました。

小山会長は挨拶で、「健康に留意しながら会員相互の交流・親睦を一層図りたい。母県も大震災から6年になるが、これからも福島を忘れず支援したい」と述べました。

来賓の福島県北海道事務所 長谷川所長からは、資料を配付しながら復興状況についての話があり、引き続きの支援を要請されました。早速議事に入り、新年度の事業計画では、傷心惨目碑前祭や福島産農産物の斡旋など提案どおり承認されましたが、会長からは他にも良い企画があれば前向きに検討したいのと各位の積極的な提案を要望されました。

事務局長死去に伴う役員補充については、現幹事・会計の菅野広道さんが新事務局長に、そして新幹事には安野吾郎さんが選任されました。

総会終了後記念撮影をし新年会に入りましたが、母県の銘酒と美味しい料理を味わいながらビンゴゲームなどで盛り上がり楽しいひとときを過ごしました。

最後は、お花見会での再会を約し

熊坂顧問の乾杯で締めさせていただきました。



【魚来亭にて】

## 29年度総会・懇親会開催

旭川福島県人会

幹事長 圓谷 清

3月5日(日) 11時から定期総会、12時から懇親会を開催しました。

福島県北海道事務所長 長谷川守様、同事務所 坪井崇様、ペーパードレス福島県人会副会長 三瓶登美治様はじめ6名のご出席を賜り、30名の出席で開催できました。

総会において、各議事項目毎に承認を受け閉会し、懇親会前に参加者の集合写真の撮影をしました。



【旭川トーヨーホテルにて】

懇親会において、佐藤会長より新入会員4名の紹介があり、来賓の長谷川守様、三瓶登美治様よりご祝辞を賜り、当県人会副会長二瓶直司さんの乾杯の音頭で懇親会に入りました。

余興に入り、中山スミ子さん、奥天範子さんのダンスと佐々木ナミさんの舞踏の披露があり会場の雰囲気気が和み、カラオケでは大いに盛り上がり予定の時間を少し延長してしまいましたが、最後に全員輪になり北海盆踊りを踊ってファイナー

レを飾り大いに親睦と友好を深めることができました。

最後に山口正幸さんにより、会員皆さんの健康第一を考えまた次回元気で会えますようにと一本締めにより終了しました。

## 磐梯吾妻スカイラインと美幌峠

美幌町福島県人会

会員 前崎 久信



福島県人会北海道連合会の皆様には益々元気で過ごしのことと申します。美幌町県人会も現在約30名の会員で、新年度をスタートしています。さて、私と美幌町県人会との関わりは妻に誘われての入会であります。それは今から30年前になりますが、当時高速もなかった時代でしたが、東京へ車で出かけた時の帰りに磐梯吾妻スカイラインを越えた時、あの素晴らしさからでした。高湯温泉から浄土平く土湯

峠に至る28・7キロメートル、最大標高1,622メートルの高所を走る山岳観光道路であり、荒涼とした高原へ進む景色の移り変わりは実にダイナミックでした。あの風景を思い浮かべた時に夢のようであり、福島の誇りと、温かさが脳裏に浮かんだ事でした。

このスカイラインと美幌峠に何かしら共通点を感じ、深い縁を感じたところです。美幌峠は標高約525メートル、その眼下には、カルデラ湖として世界第2位の大きさを誇る東西26キロメートル、南北20キロメートルの、日本最大のカルデラ湖、屈斜路湖が飛び込んで来ます。周辺360度の眺望は、今なお噴煙を吐く硫黄山、知床連山、摩周湖が連なる壮大なパノラマで、道東観光を代表する峠であります。

また峠レストハウスは、NHK朝の連続テレビ小説「君の名は」のロケ地であり、実際に使われた幌馬車映画のスティール写真の数々、又歌手美空ひばりの「美幌峠」の歌碑等々欠くことの出来ない展示情報施設もあります。

私が入会以来、会員の一人として今日に至っていますが、特に誇りと

しておりますことは、近藤会長をはじめ、役員と会員が一体となつての諸行事に取り組むその熱意に感動したところです。それは、常に役員会を開催しながら会員相互の意思の疎通を重ね親睦の輪を広げているからだと思ひます。

この良さは福島県人の本質であろうと思ひます。今年も近藤会長を先頭に諸行事の活動に期待をしております。

### 福島に思いを馳せて

美幌町福島県人会

会員 佐藤 律子



私は福島育ちではなく、道産子です。義理の父が福島の郡山育ちで、3歳で北海道に渡つて来たそうです。福島には10数年前、次女が高校生の際、クロスカントリーの大会へ出るため、猪苗代湖へ行くのに付いて行ったのがきっかけです。郡山

の駅の近くのホテルを取り、猪苗代湖へ行ったのです。

この郡山は、わずか数年ですが父が暮らした町などと、思いを馳せていました。そんな福島を地震が襲い、変わり果てた姿がテレビに映し出されました。あの町この町は、どうしただろうと、思う毎日がありました。今はほんの少しずつですが、復興しているそうで安堵をしております。いつか又福島へ行きたいです。

ガンバレ福島、遠い北海道から、エールを送ります。いつかは、美幌町県人会のみんなと、福島へ行きたいです。福島への思いをよせて。

### 就農2年目を終えて

美幌町福島県人会

会員 吉田 良子

会社勤めをしていた主人が農家を志し、一家5人で美幌に移住して、間もなく5年が経とうとしていきます。移住当時小学1年生、年少さん、そして生後1ヶ月だった3人の子供達も、今年、小学6年生、小学3年生、年長さんになります。内地では室内遊びか、公園の遊具で遊ぶこ

としか知らなかった子供達も、美幌でたくさんの友達に恵まれ、木登りや雪遊びをして楽しむなど、たくましく成長してくれました。

ともに福島県出身の私たち夫婦にとつて、北海道での生活、特に冬は驚きの連続でした。初めて体験する氷点下20度の世界。朝、窓一面に張つた霜の模様の美しさ。一面の銀世界。どれも初めて目にするものでした。また、車の中に置いてあつたペットボトルのお茶やジュースがカチコチに凍つてしまつたり、物置に貯蔵していたつもり野菜がカチコチになってしまつたり、と慣れぬ寒さに、今では笑い話になつたたくさんの失敗もしてきました。

美幌に親戚も知人もなかつた私たちが集まる会があると聞き、入会させていただいたのが福島県人会でした。福島から美幌にたくさんの方が入植した歴史があり、福島に関わりのある方が美幌にたくさんお住まいだと聞き、とても心強く思いました。県人会の皆さんはいつもとても温かく、行事の度に農業のことや子育てについてお話しさせていただくのを、いつもとても楽しみにさ

せていただいております。

5年前に農家を志して美幌に移住した私たちは、主人の3年間の研修期間を経て、2年前に就農しました。昨年は長雨に台風と悪天候に見舞われましたが、周囲の農家さんたちの温かいサポートもあり、2年目のシーズンを無事に終えることが出来ました。私自身、「何とかなるだろう。」と始めた農業でしたが、就農前は専業主婦だった私にとつて、農業と家事の両立は2年を過ぎた今でも大きな課題です。子供達や主人の協力もあり、何とかやっていますが、これから始まるシーズンは、もう少し上手く両立することを目標にしたいと思います。

「食」は人が生きていく上で最もとも基本となるものだと思います。生きることに、すなわち、食べることであると思うのです。食の供給が不安定になれば、人々の生活も心も不安定になってしまうことでしょう。その食を支える農業は、これまででも、そしてこれからも、人の生活から無くすことの出来ない産業であると思います。近年の、新興国の台頭や世界の人口増加に代表されるように、世界を取り巻く食の環境は、こ

の先も大きく変わることが予想されます。農業に従事する者として、これからも人々に食の安心を提供し、その先の世代につないでいけるよう、子供達が「農業ってかっこいい！やってみたい！」と思ってくれるような農家を目指していきたいと思えます。



【吉田さん一家】

### 東北6県県人会の解散

苦小牧福島県人会

事務局長 大槻 正吾

苦小牧には、東北6県の連合会がありました。昨年12月の忘年会を最後に、結成18年間の活動を終

えて解散となりました。

結成の動機は、平成10年の苦小牧市制50周年記念事業の「港まつり」に、市より市内に存在する各東北県人会に対して、郷土芸能を披露してほしいとの要望があり、早速、一丸となって取り組むため「忍耐力と強靱さの東北魂でふるさと東北」と苦小牧の交流の輪を広げ、会員相互の親睦を図ろう」と東北6県県人会連合会が発足しました。

「港まつり」では、各県の郷土芸能として、青森県（ねぶた）、山形県（花笠音頭）、岩手県（鬼剣舞）、宮城県（すずめ踊り）、秋田県（竿燈）そして福島県が（白虎隊）を招へいし、市内パレード及び舞台で披露するなど市制50周年記念行事に花を添え、市民から大変好評でありました。

翌年からは、「港まつり」に各県人会が、郷土の名産品を販売するなど毎年出店してきましたが、経年することに出店する県人会が少なくなり、現在は、2、3の県人会のみとなりました。（福島県人会は、今後とも「もも」等の販売を実施）

連合会では、各県人会が3年ごと幹事局を務め、6月には、「港まつ

り」の出店打ち合わせを始め、12月には忘年会、そして3年毎に総会と合わせての懇親会を実施してきました。また、各県人会の総会やそれぞれの各県の行事（芋煮会、きりたんぼの会等）にも参加し親睦と交流を深めてきましたが、年々会員の高齢化、会員の減少化が進み2、3の県人会より脱会したいとの意見が出始め、大変残念であるとの声もありましたが、18年間続いた連合会も、昨年12月の忘年会をもって解散となりました。



【苦小牧東北6県県人会連合会忘年会の様子】

他には無い、同一市内に東北6県の県人会があること自体珍しい事であり、数多くの会員との交流が深

められてきましたが、今回の解散ですべてが終わるのではなく、それぞれの県人会の活躍を祈るとともに、今後とも末永く付き合って行きたいと思えます。

## 新会員の紹介

函館県人会

辻広 祥則 様 (出身 函館市)  
田中 豊子 様 (出身 函館市)

旭川県人会

横田 象二郎 様

(出身 高知県)  
高畑 義孝 様 (出身 旭川市)  
奥天 範子 様 (出身 美瑛町)  
草野 常幸 様 (出身 須賀川市)

苫小牧県人会

柳沼 廣志 様 (出身 郡山市)  
柳沼 清江 様 (出身 郡山市)  
岸本 和香 様 (出身 福島市)  
亀岡 正一 様 (出身 福島市)

## 平成29年度

### 連合会総会のお知らせ

去る平成28年10月27日に千歳市で開催された連合会役員会において、平成29年度福島県人会北海道連合会総会を、札幌市で開催することが決定しました。

皆さまお誘い合わせのうえ、是非ご出席いただきますようお願いいたします。

○開催日

平成29年5月27日(土)  
～28日(日)

○場所

定山溪万世閣ホテルミリオートネ  
(札幌市南区定山溪温泉東3丁目)

## OBからのお便り

公立大学法人会津大学 学生部  
主任主査兼係長 安部 宏宣

春寒の候、福島県人会の皆様には益々ご健勝のことと存じます。

私は、平成24年4月から平成27

年3月までの3年間にわたり北海道事務所勤務いたしました。

この間は、各地区の県人会総会などの催しにお招きいただいたり、県産の農産物販売や物産展へご協力いただいたりする中で、県内に居ては気付かなかつただろう母県の良さや歴史に気づかされ、あらためて福島県を見直すことができました。そんな機会を与えてくださった県人会の皆様にはあらためて感謝申し上げます。

さて、私は赴任前から北海道が好きで20回以上渡道しており、北海道事務所への転勤は願ってもない機会でした。在道中は暇を見つけては道内を走り回り、東西南北端を訪ねたり、釧路湿原、大沼公園、美瑛・富良野の雄大な景色や、トムラウシ、ニセコ、川湯、濁川などの温泉を堪能しておりました。

また、趣味である空知を中心とした炭鉱の遺構、旧国鉄の廃線・未成線や運炭鉄道・簡易軌道の跡地、太平洋岸等に現存する戦争遺構などの探索と併せて、道東・道北に見られる会津藩ゆかりの史跡を巡り、北海道と福島県とが深い縁で結ばれていたことを実感できたのも赴任

のおかげと言えるかもしれません。そのため、北海道の次の赴任地が会津若松となったのも故無きことではないと思っております。

現在、私は会津若松市に在る会津大学で受験生の募集や入試に関する業務を担当しております。本学は日本初のコンピュータ専門大学として開学以来、世界中から公募した優秀な教員が学生に高度な専門教育を行うことでコンピュータの優れた知識と高い国際感覚を身につけた人材を各方面に送り出しています。

北海道からも多くの学生が学びに来ておりますので、皆さんの周りに有望な高校生がおりましたら、会津大学を薦めてくださるようお願い申し上げます。

幸い(?)にして在道中に娶った妻が道内の人なので、北海道との縁はこれからも続くこととなりました。年に1度は帰省で渡道するのが慣わしとなりましたので、その際お目に掛かる機会がありましたらどうぞよろしくお願いいたします。

末筆ながら、各県人会の益々のご発展と会員の皆様のご健康とご活躍をお祈りしております。